

(1) 平成 22 年度 研究主題 (3 年計画の 3 年次)

自分の考えをもち、進んで表現する子どもの育成

(2) 研究主題設定の理由

本校の子どもは、明確な目標を設定された場面においては、一生懸命目標に向かって努力し、目標に照らし合わせて自分の考えを表現することができる。しかし、学習したことや読んだ文章に対して感想や意見を求められる場面では、自分の考えをまとめ適当な言葉を選んで表現することができず、発表に対して消極的な面が見られた。これは、自らが課題意識をもって学習に取り組むことができず、受動的な学習になっているためと考えられる。

そこで、今年度から研究主題を改め、本校の教育目標である「めあてをもって学ぶ子」の具現化のために、自分の考えをもって学習活動に臨み、相手意識や目的意識をもって進んで表現しようとする子どもの育成を目指していくこととした。

(3) 研究のねらい

学年相応の相手意識や目的意識をもち、自分の考えを伝え合おうとする子どもを育てる授業づくりはどうか、授業実践を通して明らかにする。

(4) 研究仮説

聞くこと、話すことを大切に、互いの考えを交流させることによって、一人一人の聞く力・話す力が高まり、進んで表現する子どもの育成を図ることができる。

○目指す子ども像 (学級目標として掲げ、意識化を図る。)

「あいてを見て はなしを聞く子」・・・・ひまわり学級 (特別支援学級)

「よく聞き 考えて話す子」・・・・きらめき学級 (2・4 年複式学級)

「自分の考えと比べながら話し合う子」・・・・かがやき学級 (5・6 年複式学級)

(5) 研究内容

○「話す」「聞く」「伝え合う」「書く」ことを効果的に取り入れた授業の工夫

○学年の発達段階に即した学習ガイドの育成

○言語環境の整備 (ノート指導を含む)